

電源がなくても、原子炉および使用済燃料プールを冷却することができます。

- ・冷却するための大容量ポンプ車や専用配管など、さまざまな注水手段を用意しています。
- ・緊急時にポンプ車などの運転操作をする水源確保のための対応要員は、発電所および近傍に24時間体制にて待機しています。

◆原子炉などに冷却水を注水するまでの流れをご紹介します

①標高21mにある大容量ポンプ車を水源まで移動



②がれきなどの障害物は、ホイールローダで撤去



③水源から淡水または海水を取水

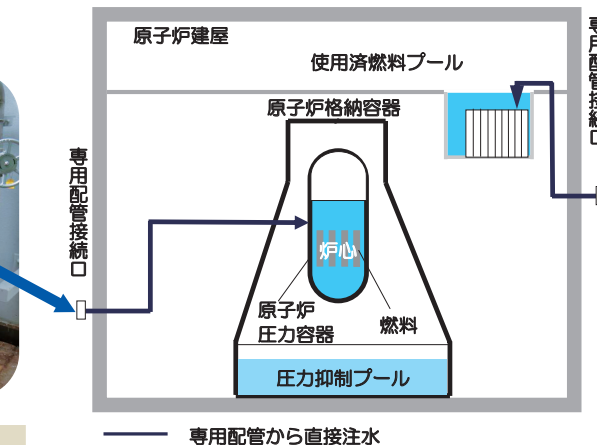


淡水タンク
淡水が不足した場合は
海水を使用

④専用配管接続口まで
ホースを延長



⑤専用配管を使って冷却水を
直接原子炉に注水



高压電源車



電源確保対策は大前提です

原子力発電所は、原子炉が停止しても燃料棒からは熱（崩壊熱）が出続けます。

この熱を取り除くには、電源を確保し、原子炉などに注水するためのポンプを動かします。

このため、非常用電源としてのディーゼル発電機のほか、高压電源車や低压電源車などの電源設備を用意しています。

私たちは、万一の場合でも安全対策のための資機材を確実に使えるよう、日々訓練などに取り組んでいます。



防災全般を総括する
安全・防災室長

福島第一原子力発電所の事故の教訓は、次の3つです。

1. 絶対に重大事故（シビアアクシデント）を起こしてはいけないこと
2. そのためには電気や水が絶対必要であること
3. 万一の場合でも、電気や水を確実に供給すること

このため、私たちは、どんな状況になっても原子炉を守れるよう、何重もの注水手段を確保し、それらを実際に使う場面に直面した時に、確実に使えるよう日々訓練などを行っています。



大容量ポンプ車による
海水の取水訓練



ホイールローダによる
障害物の撤去訓練



24時間体制にて待機しています
(写真は安全・防災室 施設防護グループ員)

◆新規基準への適合性確認審査については、安全性向上に資するものであり、再稼働に直結するものではありません。今後とも、地域の皆さまに積極的かつきめ細かく丁寧に情報を提供してまいります◆



■注水手段に関するご質問にお答えします■

Q. ポンプ車は、何台あるのですか？また、他の注水手段はあるのですか？

- A. ・大容量ポンプ車は6台配備しています。
・他に消防車や可搬式ポンプも配備しています。



可搬式ポンプ



消防車

Q. 水を送るホースの長さは充分にあるのですか？

- A. ホース延長車は6台あり、最長では約2,000mのホースを積載しています。ホースはさまざまな状況に対応できるように、すべて連結して使用できます。



ホース延長車



■発電所の周辺市町にお住いの皆さまへの説明会を開催しています■

10月7日より、発電所の周辺市町にお住いの皆さまを対象に、「東海第二発電所 安全対策等の説明会」を開始し、11月24日現在で28回、2,041名のご参加をいただきました。引き続き、説明会については、開催する市町単位でご案内をさせていただいておりますので、是非ご参加をお願いいたします。

東海テラパークからのお知らせ

◆東海テラパークでは、安全対策や訓練の様子など、各種パネルやビデオでご覧いただけますので、是非お越しください。

イベントのご案内

- 12月14日(日)
「げんでんクリスマスパーティー」

イベント内容につきましては、東海テラパークへお問い合わせください。



ゲンくん



テラちゃん

東海テラパーク

所在地 那珂郡東海村白方1-1
電話 029-287-1252
開館時間 9時～16時30分
入館料 無料
休館日 年末年始(12/29～1/3)

当社ホームページから新規基準への対応に関する公開資料、説明会の状況などがご覧になれます。

<http://www.japc.co.jp/shinsei/tokai/index.html>



■説明会でいただいた皆さまからのご質問にお答えします■

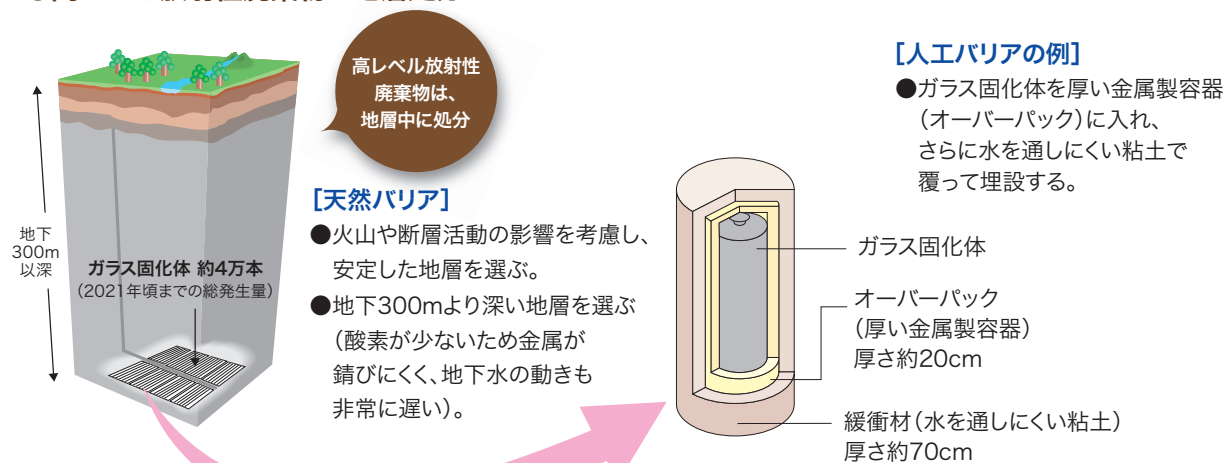
Q. 東海第二発電所の使用済燃料はどのように管理をしているのですか？

- A. 現在、東海第二発電所にある使用済燃料は、原子炉建屋の使用済燃料プールと、使用済燃料乾式貯蔵建屋に保管しています。
使用済燃料プールの水温は、常に適切な温度になるよう管理しています。代替の冷却手段として、ポンプ車から使用済燃料プールに注水することも可能です。
また、使用済燃料乾式貯蔵建屋の使用済燃料は、除熱、閉じ込め、遮へい、臨界防止の機能を有した専用の貯蔵容器に収納されています。貯蔵容器は空気で自然に冷却しています。

Q. 高レベル放射性廃棄物はどのように処分するのですか？

- A. 現在、使用済燃料は、青森県六ヶ所村で建設中の再処理施設で処理し、再度燃料として加工する計画です。使用済燃料を再処理する過程で発生する放射能レベルの高い廃液が、「高レベル放射性廃棄物」です。この高レベル放射性廃棄物を、化学的に安定した「ガラス固化体」に加工し、30年から50年間冷却したあと、300mより深い地下に「地層処分」する計画です。ガラス固化体は放射能が強く、人体に影響のないレベルに弱まるまで数万年以上かかります。このため、人間の管理に頼らない方法として、高レベル放射性廃棄物を人間の生活環境から隔離する「地層処分」が国際的にも共通した考え方になっています。現在、独立行政法人 日本原子力研究開発機構により高レベル放射性廃棄物の地層処分技術や深地層に関する研究開発が進められています。

●高レベル放射性廃棄物の地層処分



出典:電気事業連合会 原子力コンセンサス2014

お問い合わせ先
土日祝日を除く 9時～17時



日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所
東海事務所

茨城県水戸市笠原町978-25 TEL:029-301-1511
茨城県那珂郡東海村白方1-1 TEL:029-287-1250

当社ホームページ 原 電 検索
<http://www.japc.co.jp/>